

## 次亜塩素酸水溶液臭気試験結果

### 1. 試験液

次亜塩素酸水溶液（遊離有効塩素濃度 80 p p m）

### 2. 目的

消臭効果試験

### 3. 対象臭気

アンモニア

アセトアルデヒド

酢酸

硫化水素

トリメチルアミン

メチルメルカプタン

### 4. 試験方法

対象臭気濃度を設定した三角フラスコ(1L)に試験試料 100 μ L を入れ、35℃、30 分、60 分後に北川式検知管法を用いて残留濃度を測定した。対照として対象臭気を含ませたろ紙のみを入れ、同条件で臭気を測定した。

### 5. 試験先

衛生微生物研究センター

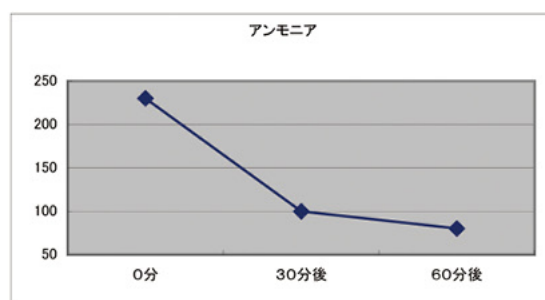
### 6. 試験結果

アンモニア

初発濃度	30 分後	60 分後
230	100	80

し尿のような臭い。数 ppm でも刺激的な臭いが鼻をつく。

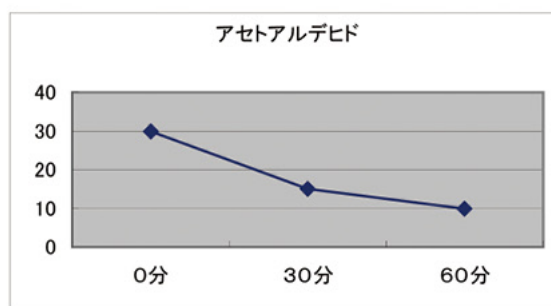
アンモニアは塩素と反応して、無臭成分のモノクロラミンと水に変化して無臭化させます。



### アセトアルデヒド

初発濃度	30分後	60分後
30	15	10

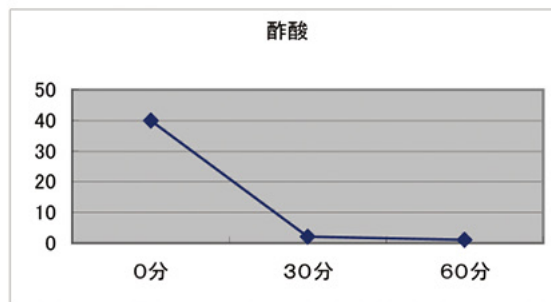
刺激的な青くさい臭い。



### 酢酸

初発濃度	30分後	60分後
40	2	1

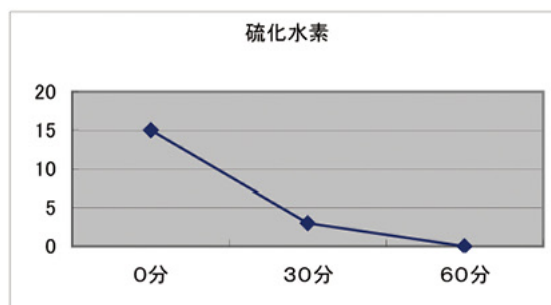
刺激的なシンナーのような臭い。



### 硫化水素

初発濃度	30分後	60分後
15	3	0

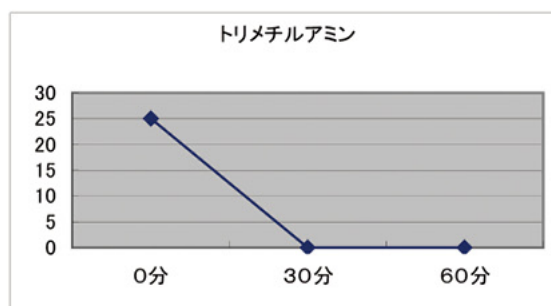
腐った卵のような臭い。1ppm 以下でも強い臭いがする。



### トリメチルアミン

初発濃度	30分後	60分後
25	0	0

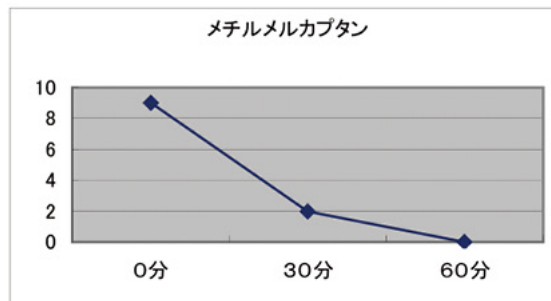
腐った魚のような臭い。1ppm 以下でも強い臭いがする。



### メチルメルカプタン

初発濃度	30分後	60分後
9	2	0

腐った玉葱のような臭い。僅か 0.2ppm 以下でも強烈な臭いがする。



## 7. 参考資料

成分濃度と臭気強度の関係

(単位:ppm)

成分- 強度	1	2	2.5	3	3.5	4	5
アンモニア	0.1	0.6	1	2	5	10	40
アセトアルデヒド*	0.002	0.01	0.05	0.1	0.5	1	10
酢酸	0.3	1	3	7	20	40	200
硫化水素	0.0005	0.006	0.02	0.06	0.2	0.7	8
トリメチルアミン	0.0001	0.001	0.005	0.02	0.07	0.2	3
メチルメルカプタン	0.0001	0.0007	0.002	0.004	0.01	0.03	0.2

臭気強度内容

臭気強度	内 容
0	無臭
1	やっと感知できる臭い(検知閾値濃度)
2	何の臭いであるかがわかる弱い臭い(認知閾値濃度)
3	らくに感知できる臭い
4	強い臭い
5	強烈な臭い

株式会社アプロ環境資材部

〒153-0063

東京都目黒区目黒1-4-16目黒Gビル

TEL03-5434-8480 FAX03-5434-8408